

埼玉連だより

令和3年5月31日

第
67号

★発行事務局 〒359-0026 所沢市牛沼 250-19 (本橋民夫方) TEL・04-2995-3839

埼玉県弓道連盟総務委員会

令和3年度に向かって

会長 本橋 民夫

令和2年度は、コロナに始まりコロナに終わった1年間でした。そして、令和3年度に入ってもコロナとの戦いは継続中です。

埼玉県弓道連盟としては、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、計画した多くの事業を中止または予定を変更して行いました。

3月末に2度目の「緊急事態宣言」は解除されたとはいえ新規感染者数の減少は見られません。コロナとの戦いは、今年中に収束することは考えにくく、不要不急の事業を自粛しなければならない状態が継続すると予想されます。

しかしながら、今年度も『仕方ないので何もしない』で、済ませてはいけないと思います。

コロナ禍という厳しい状況下にあって、各種事業・行事の目的・目標に立ち返り、前例や固定概念に捉われることなく、これまでにない発想や柔軟な思考を発揮して、取り組み方を大きく変えることが必要だと思います。そこから、各種事業の新しいやり方、例年と違った方式等が見えてくるものと思います。

新型コロナウイルス感染防止対策として、「弓道稽古のガイドライン」を作成しました。また、各種事業実施にあたっての「手引き」も作成しました。これらを駆使して、今年度は計画した事業はすべて行うということに努めたいと思います。コロナ禍の状況により多少の変更はありますが、事業実施に当たっては以下のように進めていきたいと思っています。

1、全般について

接遇における物の受け渡し等の際の感染防止を徹底するために、状況に応じて接遇は廃止します。即ち、会議参加者、審査員、審判員、講師、各種役員等への昼食・飲み物等は連盟とし

ては準備せず、各人に準備して頂きます。

2、会議等について

極力対面での会議を予定しますが、状況により、選抜された代表者による少人数の会議及びリモート会議と致します。また、各委員長等をメンバーとした役員会を毎月リモートで行い、翌月の行事实施の適否等を検討します。

3、審査会について

学科については、事前に課題を示し、審査会当日にレポートを提出して頂くようにします。射技については、受審者の密状態を避けるため事前に受審番号および実施時刻を連絡し、その時刻に合わせて集合して受審して頂きます。合格発表は後日支部長経由で行います。

中央審査会は埼玉県内で6回開催され、茨城、栃木、群馬、埼玉の八段以外の受審者はすべて埼玉会場での受審となります。

4、競技会について

参加希望者には、申し込み前に所属道場等において各人の記録をとって頂き、申し込みとともに各人の記録を提出して頂きます。その記録をもとに大会の出場者を選考いたします。

5、講習会について

1会場の参加人数を30名程度に制限して行います。申込者多数の場合は、抽選等により受講者を決めさせていただきます。講師はマスク、フェースシールド等を使用するとともに、極力直接手を触れずソーシャルディスタンスを確保して口頭での指導をします。

これらの状況については、コロナ禍の状況に応じて年度途中に見直しを行い対処いたします。以上のような対策により、埼玉連の会員の皆様からコロナ感染者を出すことなく、各種制限下で計画した行事は全て行うという方針で各種事業を進めていきたいと思っています。

皆様のご協力よろしくお願いたします。

松沢 岳範士を悼む

松沢 岳先生を悼む

会長 本橋 民夫

松沢岳先生におかれましては、令和2年9月14日に逝去されました。(享年 96)

地元の方の話によれば、8月31日に熊谷市の道場で指導をなさった後、最後に一手を引かれ的中してお帰りになられたそうです。それが最後の射になってしまったようです。

松沢先生は、昭和12年熊谷商業高校で弓道を始められました。終戦後、東京電力で弓道を再開され、昭和36年に転勤した事務所の向かい側に森戸康之範士の道場があり、森戸先生の指導を仰ぐようになりました。

松沢先生は、全日本勤労者弓道選手権大会や国民体育大会等数多くの全国大会に出場され、昭和37年の岡山国体では総合優勝を果たしておられます。

その後は全日本選手権大会には6回出場され、全日本弓道大会では範士の部で2度優秀賞を受賞されました。

役員としてもご活躍され、弓道界の発展、後進の育成に貢献されました。

全日本弓道連盟関連では、中央講師・審査員として全国を回り活躍されました。また、理事、総務委員長などの要職を歴任され、全日本弓道連盟の運営等に尽力されました。

埼玉県弓道連盟関連では、理事、理事長、副会長を歴任され、平成5年から4期8年の間会長を務められ、埼玉県弓道連盟の発展と弓道の普及振興に貢献されました。

また、後輩の指導には特に力を入れておられ、各種講習会等での熱のこもったご指導は有名でした。特に印象に残っているのは、『何もしないんだよ。何かするから中らないんだよ。』と言われ、『大三では弓手の指先を開けるくらいの感じで、弓を握るんだよ。』と言いながら、実際に範示してくださいました。さらに、先生の弓道教本を覗きましたところ、余白にぎっしり

とメモが書き込まれており、それらをもとに指導をされておりました。

先生の長年のご功績により、次のような賞を受賞されております。

昭和61年 埼玉県体育功労賞
平成8年 埼玉県知事賞(体育功労)
平成12年 文部大臣賞(体育功労)
平成12年 勲六等単光旭日章
平成22年 日本武道功労章

このような先生を失うことは、埼玉県弓道連盟のみならず、弓道界としての損失は如何ばかりか計り知れません。

残された我々は、少しでも松沢先生のご恩に報いるよう努め、埼玉県弓道連盟の発展に寄与したいと思っております。

松沢岳先生のご冥福をお祈りいたします。

松沢 岳先生を偲ぶ

岡田 義助

90才を過ぎてもなお、^{かくしゃく}矍鑠としていて、にこやかな笑顔でおられた松沢先生が遂に帰らぬ人となった。

埼玉連の願いは、ずっと松沢先生の生前九段昇段であり、目の前までにきていたが、とうとう適わぬ夢となってしまった。

私が松沢先生と初めてお会いしたのは、今から60年前の昭和35年、私が高校3年時、県高校予選で県代表校となり、第15回国民体育大会に向け、県合同練習に参加した時であった。松沢先生は一般男子の選手でした。大前/大堅正(秩父)、中/松沢岳(熊谷)、落/町田真之亮(旧名栗村)、一般女子の当時は、1名高校生が入っていて、大前/正田昌代(行田女子校)、中/小久保恵子(現儘田羽生)、落/大内光恵(浦和)、監督は浦和の根岸好雄先生、与野高は

栗原行平先生であった。県合同練習、本国体で一般の選手とどういった話をしていたかは余り記憶がなく、自分たちの練習や成績に没頭していた。

その時の成績は埼玉女子が近的優勝、遠的2位、与野高が遠的優勝、一般男子は入賞ならずという成績であった。



それから月日は経ち、平成の時代に、私は七段に昇格し埼玉県立武道館（当時は浦和の県庁裏にあった）の弓道講師の一員となっていた。既に専任講師だった伊沢千珠先生は亡くなっており、初心者教室は続けていたものの、一般の熟練者の指導にあたってもらうため（当時東京電力大宮支店に勤務していたと思われる）松沢岳先生が週一回見えることになった。先生は火曜日の午後6時から8時までの2時間、池田邦子先生と指導にあたっていたが、当日は遠方から大勢の弓道愛好者が見えていた。亡くなった小宮栄子先生も講師で確か木曜日担当だったと記憶している。



講師仲間は、年数回懇親会を武道館近くの店でやっていた。アルコールが入ってくると松沢先生は、真っ赤な顔になり、「岡田君とは高校生の時の18才で出会って、僕はその時36才だから18才違い、だから今でも岡田君の歳はいつでも解るよ」と事ある毎に言ってくれていたの

を思い出す。私達がたった1年数度の出会いでの関係を憶えていてくれていたのに感激した。

県立武道館の指導でも、休憩中にお茶を飲みながら良く言っておられた言葉、同じ講師仲間、「教える時、最初から悪い点だけ指摘するのではなく、まずは良いところを褒めなさい。褒めてからそれからここを直すともっと良くなりますよ」と言うと、言われた人は素直に聴く耳を持つよ」と良く言われていて、私は現在でも実践するようにしています。

またある時、跪坐の話になった時、松沢先生は「確かに跪坐は大変だけど、私の右足の親指は先天的に曲がらないので跪坐には苦勞したんだよ。そして今でもやっているのは、親指の爪を床にぶつけて跪坐する方法、最初は大変だったけど段々と慣れてきてたんだ」と、言っておられた。そんなつらい思いを事なげに笑顔で話されていたのを聴いて、自分がそうだったら、果たして同じようにやっていたかと考えさせられた。

そんな先生のエピソード、現在明治神宮内にある中央道場が出来上がった時、各弓連に一日無料開放の話があり、埼弓連は借りた日に高段者の講習会をすることになった。講師は松沢岳先生、池田邦子先生と共に私も講師の端にいた。

その日は数日前に雪が降り、矢道にはまだ降り積もった雪が残っていて、朝から底冷えのする一日であった。ただ、中央道場の師範席の床は床暖房になっていて、足は温かかったのを憶えている。

その寒い中、受講生の一手が終了し、一同道場内に集まり、松沢先生が道場に降り総評をおこなっていて暫く話していたが、突然大きな声で身体を震わせながら「ウー、寒い、声まで震えてしまう」との声というか、叫び声、受講生は一瞬し～ん、そして爆笑となった。何時も静かに話されていた先生からは、思いがけない一幕であった。あの突然の大きな声が今も懐かしい思い出である。合掌

（注 上記文章中、選手名にあえて先生をつけずに記したことをお許しください。）

教士取得講習会の思い出

内河 輝臣

埼玉県弓道連盟の宝ともいえる松沢岳先生が亡くなられ、本当に残念です。先生は弓が抜群に巧かったばかりでなく、事務能力・企画力なども格段に優れ、そして何より素晴らしい人格の、三拍子そろった百年に一度出るか出ないかと思われる希有な存在でした。

平成17年2月、私は当時の小澤通春会長のご指名により教士取得特別講習会に参加させていただきましたが、この講習会はいろいろな意味で忘れがたいものとなりました。

まず、主任講師が松沢先生であり、講師の中に小宮先生もおられたことは、埼弓連会員としては非常に嬉しく、心強く感じました。



講評中の松沢範士と他の講師の先生方

講習会は平成17年2月23日～25日、全弓連中央道場にて行われ、各地連から推薦を受けた49名が参加した。

この講習会の4日前に支部の称号者特別講習会の予定があり、講師に松沢先生をお願いしてあったのですが、その10日ほど前から咳が出始め、喉の痛みも感じられるようになった。大切な予定を控えているので、行動を自重して様子を見たが、症状は回復するどころか悪化の一途をたどり、頭痛もひどくなってきた。

支部長という立場上散々迷ったあげく、後のことを考え、副支部長に託して支部講習会は休ませてもらうことにした。当日、松沢先生は「内河さんの様子はどうなんだ。大丈夫かな」としきりに心配されていたとのことであった。

その翌日はまだフラフラでしたが、申し込ん

であった埼弓連講習会の欠席連絡を兼ね、編集長を務めていた「埼弓連だより」の原稿受領の約束もあったので、上尾の県立武道館まで出掛け、後は静かに過ごした。

講習会前日には両肩や両腕も痛くなり、弓が引けるか不安な状態になった。小澤会長に連絡し、辞退を申し出ようかと迷ったりもしたが、今さら欠席するのも大迷惑と覚悟を決めた。

当日の朝、一応熱はさがったので、止める家内を振り切ってとにかく出掛けた。中央道場に着くと松沢先生の姿をさがして、支部講習会欠席のお詫びを申し上げると、心配そうな目で、「あ、大丈夫かい？ でも、来られてよかった。あまり、無理しないようにね」と、お気遣いのお言葉を頂戴した。

開講式が始まり、「礼記射義、射法訓」の唱和で、張り切って声を出したところ、たちまち咳き込み、暫く止まらなくなってしまったので、以後は「ロパク」で対応することにした。

当時はまだ、筒袖を着るようにとの指導もなく、寒かったが素肌で通した。特に最終日は夜のうちに雪が降り、矢道もうっすら雪化粧して、ことのほか寒かった。松沢先生は、講習会中もしばしば私の方を心配そうな顔つきでご覧になり、時には「大丈夫かい、あまり無理しないようにね」と声を掛けて下さり、大変恐縮した。

こうして、何とか三日間の講習会を無事乗り切り、教士の称号を頂くことができて、心底ホッとしたというのが正直な心境であった。

松沢先生、大変なご心配とご迷惑をおかけいたしましたし、申し訳ありませんでした。そして、温かいお気遣いを賜りまことに有難うございました。ここにあらためて、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌



「弓道誌」平成17年4月号に掲載の写真

「資料提供 公益財団法人全日本弓道連盟」

松沢 岳先生に

正能 正三

松沢先生、先生がお亡くなりになってから、もう半年近くが経ってしまいました。あまりにも突然の事で、いまでも「やあ、今日は元気だったかい」と顔を出される気がいたします。いつも会う度に、私の身体を心配して下さっていました。先生の一言でどれだけ元気づけられたか知りません。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

先生には弓を通して色々なご指導を頂きました。教士を目指していた頃から一番集中的に指導を頂いたように思います。道場に先生がおいでになる度に「先生一手見てください」とお願いして見ていただきました。そんな時先生は、よく私の斜め後ろに立ち、私の稽古着の袖をつかまれました。そして「私は引っぱっていないよ。そう感じるのは肘が緩んでいるからだよ」と、自分では十分に伸び合い詰合いができていると思っても、いつの間にか、会に入って勝手が緩みがちになって離れてしまうのが私の癖でした。何とか直そうと努力しました。仲々直らず何回も先生には「ほら緩んでいるよ」と注意されたものでした。どうにかこれならばと思うようになったのは七段に挑戦している頃でした。

仙台審査に向う日、駅のホームで偶然先生にお会いしました。「やあ、これから審査だね。普段の射ができれば、大丈夫かなあ」と元気づけられました。審査では、先生に教えられた事を頭に、十分に伸び会った普段通りの射が引けました。この頃自分でも緩まらずに引けていると実感できることで出来ました。本当に全て先生のおかげです。弓は体全体で引けという事を教えていただきました。

県の指導委員に任ぜられ、講習会の名簿や日程を作ることになったとき、良く先生の助言を頂きに家におじゃましておりました。日程の中で個別指導の点では「一手の指導には一人あたり3分は必要だよ」とおっしゃって指でそばんを弾くように動かし「うん、これだけあれば充分だね」と、うなずいておられました。いつも公平で丁寧に親切な指導をいう先生の気持ちがひしひしと伝わってきました。

ずいぶん昔のことですが、私が努めていた騎西高校の弓道場が新設され、弓道場開きの矢渡を先生にお願いしたことがありました。当日は晴天に恵まれ、校長・PTA会長・後援会長・教員・弓道部員などの参列の中、私が第二介添を務めさせていただき、先生に射手を務めて頂きました。遠路熊谷から愛車を運転して来て頂きました。大勢の人前で見事な射を披露され、絶大な拍手を受けられた事を思い出しています。

先生のお宅の近くに居ることもあり、県の行事や講習会の時、車でお迎えにあがるのが何回もありました。そんな時車の中では、良く昔の事が話題になりました。「この地区は私が務めていた地区で、自転車で検針に回っていたんだよ」とか「この路は昔は狭くて通るのが大変だったんだよ」など弓の事よりも思い出話が多かったですね。



写真は平成18年10月県立武道館弓道場にて

先生とは、よくご自分の考えや、話されたことを箇条書きにして整理されていました。それを折に触れ話していただきました。その中に次の教えがありました。

- 練習でできないことは本番でもできない
 - 的中するだけでなく、見る人に感動を与えられる射を引くこと
 - 単に的中するだけでなく、胸の中筋から分かれる射を引くこと
 - 周人の目と的を忘れて射を引きなさい
 - 会の努力：如何に十文字の伸びに務めるかが大切である
 - 雰囲気には飲まれることなく、自分の持っているものを全て出すこと
 - 同じ失敗を繰り返してはならない
- 先生には語り尽くせない教えを頂きました。何の恩返しもできないままに、先生とお別れする

のは大変残念です。長い間、ご指導・ご激励を賜りました。ありがとうございました。つつしんでご冥福をお祈り申し上げます。

名誉会長 範士八段松沢 岳先生

熊谷市弓道連盟会長 手嶋 照晃

突然の訃報に接し驚愕の至りで有ります。

令和2年8月31日、私（手嶋）が午後一時半ごろ、ご自宅に迎えにあがり、道場で会員の皆と談笑し、指導され、ご自身では跪座にて一手引かれて、的中されておられ皆で見入っていました。

まさかその後、二週間足らずで逝去されるとは誰しも夢にも思っておりませんでした。

先生には、旧制中学熊商の弓道部に入部され、弟さんの松澤秀男先生や後輩の中野忠雄先生達と弓を引かれ、其れから七十年、弓を引き続けられた。

国体・実業団・全日本弓道大会等々数々の大会に活躍。

平成3年範士八段になられてからは、全弓連の要職に就かれ、日本国内のみならず海外にも指導、審査員として活躍される。

地元熊谷では、熊谷市弓道連盟の会長職を中野忠雄先生に委ねられ名誉会長となり、埼玉弓連の理事長として、県連会長の河邊賢二範士を支え、諸制度を見直し、河邊会長の後会長職を引き継がれ、現在の基盤を築き上げて来られてきたと聞き及びます。

功績としては、平成3年国体関東予選会場として、熊谷さくら運動公園内に弓道場（近的8人立・遠的6人立）県下でも有数の道場を建設されました。その後、日高市に埼玉国体弓道大会会場（近的射場常設・遠的射場仮設）、上尾市に県立武道館（一階・近的射場・二階・遠的射場）建設等々、数々の功績を上げられて来られました。

埼玉弓連・全弓連等々とあまりにも多忙さに、体調いささか不調。

公職を小澤道春先生に委ねられ、名誉会長と成られてからは、熊谷・県北の良き指導者として、我々の元に戻って来られ、「褒めて育てる」指導をして頂きました。

県北の中核、五段の錬望会（錬士を望む）・教錬士会（錬五～教六）・又教七の方々の勉強会等々、それだけでは無く、教えをこう人には惜しみなく指導して来られました。

まだまだこれから共に過ごされるものと思っていたので、残念でなりません。

これからは、先に行っておられる、秀先生や、弓友の皆さん方と共に、弓を楽しまれ、天空の天の川銀河にて射流しをされ、流れ星と成って、この熊谷の弓道場へ届くのを待って居ります。

名残は尽きません、落涙。

会員一同、先生のご冥福をお祈りいたします。

令和2年9月14日逝去、二週間前（8/30）に、坐射にて立派に一手引かれ的中。



令和2年1月12日松沢岳範士の離れ

松沢先生の思い出

県北支部長・熊弓会理事長 高橋 久雄

松沢先生は、2020年8月31日（月）道場へ来て、ご自身でも射を引かれ、お元気な様子で帰っていかれました。

9月2日（水）、先生のご家族から「今日は体調が悪いのでお休みします」と連絡を受けました。

今までは休む場合でも直接本人から電話を頂いていたので、ご家族からの連絡に一抹の不安が残りました。

一週間たち9日（水）先生宅へ連絡すると「実は2、3日前に入院しました。コロナの影響で家族も面会できないです」とのことでした。

お見舞いも出来ず心配していた矢先、訃報に

接しました。先生の年齢もあり、心の片隅に覚悟はありましたが、大きな支えを失ってしまい喪失感だけでした。残念です。

8月31日に受けた指導が最後になってしまいました。もう一日、もう一度先生のお話を伺いたかったです。



草津温泉で、松沢先生を囲んでの小旅行

ここ数年、先生は「(弓道の)技を(あの世へ)持って行けないのだから、皆に残しておきたい」「何でも教えるよ」と言われ、私達に毎日のように指導されていました。

「弓手の手の内はこう」「妻手の手の内はこう」「手の内が固い。軽く、軽くだよ」「縦線だよ」また、私の射を遠くで見ている「今の射はダメ。わかるよね」「今の射はまあまあだったよ」「左右のバランスが崩れたよ、分かるね」「離れの時、弓手は(動いてよいのは)一拳までだよ」巻藁の前では「射が小さい。悪いとは言わないが、もっと大きい方がよい」・・・

その度に出来ない自分が歯がゆく、でも先生にはたくさんのことを教えていただきました。



草津温泉の足湯にて

私が先生を意識したのは何時だったでしょう。上尾の県立武道館がなかった頃から、県連講習

会に参加すると受講者が多くて、松沢先生から「熊谷の人は帰って道場で見るからいいね」と言われ、見てもらえないことがよくありました。でも、熊谷に帰ってきて松沢先生に指導を頂いたことはありませんでした。熊谷では練習する時間帯が先生と異なり、先生にお会いすることがなく、普段の稽古は中野忠雄先生に指導を頂いていました。

ある年、秋晴れの夕方、道場で練習していると、会議の終わった松沢先生と秩父の小澤道春先生が道場へ出て来られ、私の所へ来て「この人、振込みの癖があるんだよ。どうしたら直るだろう」と松沢先生が小澤先生に話されたことがありました。ビックリもし、その時二人の先生から受けた指導のことは今でも覚えています。



令和元年7月熊弓会で暑気払い

いつから始まったか記憶がありませんが、熊谷運動公園弓道場では午後3時になるとお茶タイムがありました。道場に練習に来ていた人が談話コーナーに集まり、お茶を入れ、会員が持ち寄ったお菓子を食べて10～15分休憩するのです。

松沢先生や中野先生はその休憩時間を楽しみにされていました。私達は先生方の昔話や弓の話をお聞きして過ごしました。

2020年、コロナ禍でお茶タイムが取れなくなり、松沢先生は大変残念がっておられました。

先生は90歳を迎え、運転免許証を返納されました。その後は会員が道場まで送迎することになり、私は毎週水曜日を担当しました。当日朝に「今日はいかがですか」と連絡し、1時過ぎに迎えにあがり、4時過ぎに帰ってくるという習慣になりました。

先生は、「今日は暑くなりそうだから止めるよ」

「今日は高橋さんの射が見たいからお願いします」「今日は天気がいいからいきます」「今日は通院するからお休みします」「みんなの顔が見たいから行きます」等々。道場へ行ってみんなと話しをすることを大変楽しみにされていました。

あるとき道場へ向かう車のなかで、先生は「みんなには黙っていて欲しいが」と言われ、自身の病状を話されました。県立武道館への送迎などで思い当たる節はありましたが、いざお聞きしたときはショックでした。

2018年晩秋、体調を崩されたことがありました。その時に病状がわかったようです。

松沢先生は退職してから全日本弓道大会（京都）の参加を楽しみにされ、毎年5月が近付くと、京都の思い出を話されていました。

数年前、京都へいっても大会には参加しませんでした。理由を伺うと「片目が見えないんだよ」とのこと。前年の大会で大前になり、的付けができず矢が大きく前へ外れたそうです。危険を感じ、その後は出場を辞退されています。熊谷の道場でも、「片目しか見えないので、的が分からない」と言って、的付けの確認を頼まれることが度々ありました。白内障の手術後は逆に的が2つに見えるとおっしゃっていました。

ここ数年、熊谷で先生の巻藁射礼を残そうとビデオ撮影をしていました。先生は毎回「これが最後だね」とおっしゃり、射礼を行いました。



平成30年2月13日 巻藁射礼：会



平成30年2月13日 巻藁射礼：残心

2018年の初射会で、先生は射礼に満足されずボツ。来年は分からないからと2月に取り直しを試みましたが、再びボツ。もう一度撮り直そうとしましたが、結局先生が疲れて撮影できませんでした。この2月13日の射礼が本当に最後になってしまいました。

先生は以前、袴を着けず練習していた人から指導を求められたとき、「きちんと道着を着ない人には教えません」と毅然とおっしゃったことがありました。

また最近のこと、道場へ行く車の中で「今後、（自分が）道着を着ていないときは射場での指導を止めます」とおっしゃいました。

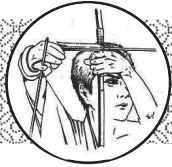
実は、体調を崩して休んでいた先生が、回復後道場へ出て来られたとき、普段着のまま射場で指導されたことがありました。先生はそれを「間違いだった」と恥じて「射場で指導をしない」と私に話されたのです。

その後、先生が普段着のときは、脇正面の席か廊下で見ているようになり、本人が退場してから指導されていました。先生の、弓道に対する真摯な姿勢と感じています。

昔、先生が先輩にあたる人から技を教えて貰えなかった時の話など、まだまだ思い出は沢山あり語り尽くせません。

先生の教えを心に刻んでこれからも修練していきます。長い間のご指導、ありがとうございました。

先生のご冥福を謹んでお祈りいたします。



専門委員会だより

総務委員会

令和2年度総務委員会報告

前委員長 浅野 光子

1、リモート会議

令和2年度は総務委員会をリモートで開催しました(9月、12月の2回)。新型コロナウイルス感染予防のための初めての試みでしたが、第66号で報告しましたテスト(7月に実施)のおかげで会議はスムーズに進みました。総務委員会での経験は理事会のリモート開催にもつながり、現在は時間制限なしでリモート会議が行えるようになりました。今後、コロナ対策にとどまらず埼玉連の諸会議で活用されることを期待します。

2、制服作製

前号で報告した制服の作製については希望者が集まらないのではないかと心配をしていましたが、希望調査を行ったところ150着を超える希望が集まり、購入しやすい価格での頒布が可能となって作製に踏み切ることになりました。各自が自宅近くの「洋服の青山」で採寸して注文を行うことになりました。今回は希望者が一カ所に参集して採寸しましたが、コロナ禍のもとで制服作製の形も変わりました。

令和2年2月の名古屋定期中央審査会では、開会式で着物を着ていなくて良いと指示がありました。「くだけない程度の私服で良い」ということでした。さあ何を着るか、難しい開会式でした。こんな時、制服なら安心です。今回の制服の生地は今までに比べ少し薄く、さらに畳んでもシワになりにくく持ち運びにも便利に作られ、審査などにも持って行きやすくなりました。直接人と会う機会が少なくなりましたが、事業が再開され制服がたくさん利用されることを願っています。

3、コンプライアンス委員会

全弓連でコンプライアンス規程が定められ、

埼玉連にもコンプライアンス委員会を設置することになりました。昨年度は倫理規程・懲戒規程を制定して倫理委員会が発足しました。ハラスメントなどの問題がなくなる一助になると期待しています。これも時代の流れですが、これからも会員の皆様が安心して弓道に取り組めますよう願っています。規程作成にご尽力頂きました先生方に感謝申し上げます。

4、2期4年を終えて

2期4年、総務委員長を務めさせていただきましたが、私は今期で退任し令和3年度には総務委員長が交代いたします。在任中は思いもかけないコロナ禍にも見舞われましたが、多くの先生方、会員の皆様のご協力を頂き仕事を終わることが出来ます。ありがとうございました。

在任4年の間には大事な先生方とのお別れもありました。これから先、迷った時にアドバイスを頂けないのはとても寂しいことですが、今まで教えて頂いたことを思い出し、正しい道を歩んでいきたいと思っています。

会員の皆さまにはこれからもよろしくお願ひします。

~~故松沢 岳先生のアルバム①~~



平成12年
中央研修会
(中央道場)
にて



京都へ行ったとき、
暫しの休息(池田先生、小宮先生と)

指導委員会

今年度指導目標

委員長 飯島千代子

新型コロナウイルス感染者が、やや減少し緊急事態宣言が解除された昨年秋に伝達講習会を計画しました。

主になる4道場の見取り図を作り、開会式・審査方式・射礼・射技指導等、それぞれの配置をコロナ対策のガイドラインに則り、細部まで気配りし準備万端整えました。

しかし、7会場予定が2会場のみ実施、他は中止せざるをえませんでした。

本年度もコロナ対策を遵守し、指導項目に則り、安心できる講習会を行いたいと思います。

指導項目

- 1、「射法、射技の基本」に徹すること
 - ・基本の5項目を深く習得していく
(基本体型を重点とする)
 - ・正しい射法八節を実践していく
- 2、「基本体の必要性」の実践
 - ・動作の注意点8項目を習得していく
(動作の基となる執り弓の姿勢を重点とする)
- 3、高段者について
 - ・更なる射品・射格を高めていく努力を要す
- 4、射技のみではなく、長幼の序等、内面からの指導を行う 以上

禅語に『萬法帰一』の教えがあります。萬の方法や教えにより、身についたもの・学びえたもの等悟ったものは、『一に戻る』という意味です。(「一」=基本)

コロナ禍で道場に行けない時こそチャンスです。日常生活の中で基本体の必要性を学んでいただきたいと思います。

何気ない動作の中で基本の動作なども改善できるものです。

松沢岳範士が生前、良く言われていた言葉があります。「何にもしないんだよ」と。基本の正しい骨法ができれば、それを崩さずに残身までいけるはずとの教えでした。

新座の平林寺の門前に『萬法一如』とあります。悟りは開けないと思いますが、高い目標をもって修練してまいりましょう。

競技委員会

大会実施に向けて

委員長 市川 政子

会員の皆様には日頃よりご協力を頂きましてありがとうございます。

令和2年度の大会がほとんど中止となりましたが下記2大会は規模を縮小し実施されました。

●3月7日 武道大会

中、高校生の部は中止。午前・一般女子
午後・一般男子。団体優勝=県南支部

●3月14日 第68回全日本勤労者弓道選手権大会埼玉県予選 参加4チーム

今回1位のカーリットホールディングスチームと前回優勝のホンダ埼玉チームが6月6日に宇都宮市で行われる全国大会に出場します。

第72回全日本弓道大会(地連別通信大会)を5月2日大宮武道館で実施しました。

新年度からは予定されている大会は全て実施されます。しかしながら新型コロナウイルス感染が続いている状況です。規模を縮小し参加人数も上限50名とし午前・午後に分けて行う予定です。参加申し込みをするにあたり、各道場で決められた矢数を引き、成績を添付して申し込む方法と致します。高的中順に(男女各25名以内)選出し、参加可能な選手は支部を通して通知致します。コロナ感染状況により変更される場合もありますので各大会案内でご確認下さい。

道場が長い間閉鎖され練習が出来なかった方、常に練習が出来た方と地域により差がありました。練習が出来なかった皆様は自分に今出来る事を考え努力して頂いたと思います。我慢する時間が長かった分、今後の大会や審査会が今迄より以上に楽しみに感じられるかと思います。

皆様の頑張りを期待致します。

大会に参加するにあたり検温をし、健康チェックシートを必ずご持参ください。

新型コロナウイルス感染が終息するまでまだまだ時間がかかると思います。油断すること無く感染予防に努めましょう。

国体選手強化委員会

三重国体をめざして

副委員長 吉澤 和代

連盟の皆様には、日頃より国体選手強化活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、緊急事態宣言が発出され過去に経験のないことで、日頃の強化活動にも大きな影響を受けました。

10月には、令和3年度開催予定の三重国体に向けて委員会を開催し、選手選考等の打ち合わせを行いました。しかし、国体選手育成会は、コロナ禍により1度も開催することができないまま、選考会を行うこととなりました。

選考会は、2度目の緊急事態宣言発出の中、2月27日、3月6日、4月4日の3回、全日本弓道連盟や埼玉県弓道連盟から示された新型コロナウイルス感染防止ガイドラインに沿って実施いたしました。2回目の大宮公園弓道場では、20名の人数制限の中、午前は男子を本橋会長以下強化委員3名が、午後は女子を岡芹委員長以下強化委員3名が担当して行うという過去に経験のない選考会となりましたが、感染防止ガイドラインに沿って無事に終了でき安堵いたしました。

緊急事態宣言の発出された中で、選考会に参加された皆さんの中には、道場の閉鎖及び練習時間や練習方法の制約等により、十分な練習も出来ずに選考会に参加された方もおられました。そのような皆さんにとっては、どのような状況の中でも結果を出さなければならない厳しさ、大変さを肌身に染みて感じた選考会であったかと思います。

今後は、7月に栃木県で予定されている関東ブロック大会に向け、国体選手錬成会で更なる射技の向上と精神面の鍛錬を重ねて、成年・少年男女共に本大会に出場できるよう、強化委員一丸となって頑張っています。

一日も早い新型コロナウイルスの終息を願うとともに、会員の皆様の応援を宜しく申し上げます。

審査委員会

令和3年度 審査会実施要領

委員長 齋藤 安次

埼玉県地方審査会（五段以下）実施要領

標記県内審査会については、コロナ禍における審査方式は大きく分けて4種類の開催方法で実施します。

但し、コロナ感染状況や受審者数によって、会場の変更や日程変更も余儀なくされる場合がございますことをご承知おきください。

地方審査会（五段含む）は県境をまたいでの受審はできませんのでご注意ください。

高校生以下（小中学生）の受審者はビデオ審査会のみとなります。但し参段受審者は一般と同じ実審査となります。

- 1、五段の審査会は、運営担当を6支部（県央・東部・県北・県南・西部・中部）持回りで担当する。令和3年度は西部支部から担当です。
- 2、コロナ禍における審査会は、会場滞在時間を最小限にするため、開会式なし・逐次受付・行射終了後帰宅・後日発表・登録料等納付、学科問題は事前に出題して、当日受付に提出する。
- 3、健康チェックシートを持参し、当日受付に提出する。体調の優れない人は当日欠席する。
- 4、高校生対象のビデオ審査会は高校の部活動中、及び一般道場稽古中に撮影をする。学科答案の提出締切りは実施日の2週間前とする。

ビデオデータの提出締切りは実施日の1ヶ月前とする。

1ビデオは5人以下する。審査は1日100人以内とする。2日間で終わらない場合は、日を空けて実施する。第7回審査会は第1回に準じて行う。受審者数によって射場数を決定する（10射場以下）

- 5、高校所属の参段受審者は、第3回・第6回の一般審査会と同日に実施する。但し、校長の許可を得ること。高校生の参段受審日は、各2日あるが申込時選択する。
- 6、受審者数は推定値であり申込者数によっては、射場数の変更をする場合もある。
- 7、連合審査は中止、所属地連内の五段受審者を対象にした地方審査会を開催する。

令和3年度 地方審査会の実施計画

審査会	審査実施日	県連申込締切	審査対象	審査会場	運営支部	受審者数	射場
第1回	5月6日(木)	3月19日(金) ビデオ締切り 4月10日	高校:初・二段	ビデオ審査会 審査委員の自宅	審査委員会	1000	3
	5月7日(金)						3
	5月10日(月)						2
	5月11日(火)						2
第2回	5月16日(日)	4月16日(金)	一般:五段	県立武道館	西部	250	2
第3回	6月13日(日)	5月14日(金)	一般:四段以下 高校:参段	日高市文化体育館	中部	500	2
	6月20日(日)			県立武道館	県南		2
第4回	9月19日(日)	8月13日(金)	一般:四段以下	秩父第一	秩父	120	1
第5回	10月17日(日)	9月17日(金)	一般:五段	県立武道館	中部	250	2
第6回	10月23日(土)	9月24日(金)	一般:四段以下 高校:参段	熊谷運動公園	県北	120	1
	10月24日(日)						120
第7回	11月20日(土)	10月15日(金)	高校	ビデオ審査会	審査	200	2
第8回	2月23日(水)	1月21日(金)	一般:四段以下	県立武道館	東部	250	2
第9回	3月19日(土)	2月11日(金)	一般:五段	県立武道館	県央	250	2

●【北関東第1・2地区】特別臨時中央審査会 実施要領

中央審査会の運営役員は県連として対応しますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

北関東地区の範囲は、群馬県・栃木県・茨城県・埼玉県になります。

今年度はこの範囲を超えての受審はできないことになっています。

全弓連は受審の機会を均等に持っていただくことを念頭に計画されています。錬士・六段・教士・七段それぞれ年間3回ずつ受審機会があります。

日程			審査会名 審査種別	県連申込 締切日	会場
月	日	曜			
4	25	日	【北関東第1地区】特別臨時中央審査会 六段・教士	3月19日	県立武道館 大宮武道館
5	29	土	【北関東第2地区】特別臨時中央審査会 七段・錬士 錬士	4月23日	県立武道館 県立武道館
	30	日			
7	4	日	【北関東第2地区】特別臨時中央審査会 錬士 錬士・七段	5月21日	県立武道館 大宮武道館
9	25	土	【北関東第1地区】特別臨時中央審査会 六段 教士	7月12日	県立武道館 県立武道館
	26	日			
12	25	土	【北関東第2地区】特別臨時中央審査会 七段・錬士 錬士	10月12日	県立武道館 県立武道館
	26	日			
R4/1	22 23	土 日	【北関東第1地区】特別臨時中央審査会 六段 教士	11月10日	県立武道館 県立武道館

女子部

新年度の活動にあたり

部長 松澤かおり

日頃より女子部の活動にご理解、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

埼弓連において女子部は複数ある専門委員会の一つとして位置付けられております。役員は、前期より各支部から2名ずつ選出していただいた14名と部長の計15名で構成されております。

活動内容は、以前は女子講習会や女子遠的大会等も開催しておりましたが、東日本女子大会の参加申し込みに伴う事務作業と県連行事である女子部弓道大会の開催の二つとなっております。この二つの事業は、開催案内を全て支部経由で各道場にお知らせし、申し込みも他の競技と同様に支部で取りまとめていただくようになっております。

このように全ての活動は県連や支部の皆さまにご協力いただきながら進めておりますが、他の地連では県連として女子部の存在が認められていなかったり、女子部自体が存在しないということもあるようで、女子のみを対象とした行事の実施は難しい地連も少なくはないようです。このような実情から考えて、埼弓連の女子部は活動環境に非常に恵まれていることをしっかりと認識した上で、感謝の気持ちを常に持ちながら活動していかなければならないと思います。

今期の役員は前期から留任された方がほとんどなので、前期の行事4回のうち中止3回、開催1回の経験ではありますが、それを無駄にすることなく、どんなことでも前回より少しでもスムーズに進めていかれるよう努力していきたいと思います。そして女子部での活動の経験を今後それぞれの埼弓連での活動に反映していけるように自覚を持って努めていきたいと思っております。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。



画・松本 正

高体連

令和3年度に向けて

委員長 坂本 修

日頃より弓道連盟の皆様には、高体連弓道専門部の活動にご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスによる感染症がなかなか収束しない中ではありますが、昨年11月7日、8日、14日に全国選抜県予選を開催しました。新人戦では各校1チーム3名での開催に対し、一人でも多くの生徒に参加してもらいたい思いから、今大会は2チーム6名での実施を計画しました。1週目に男女の1・2次予選を、2週目の午前に男子、午後に女子の決勝を行いました。各校の生徒・顧問の先生方のご協力により、無事終了することができました。

上位大会についてですが、全国選抜は団体のみの縮小という形ではありますが、12月に岐阜県岐阜市で開催されました。個人戦は行われなかったため、予選で個人入賞した選手は残念だったと思いますが、無事に開催できたことがとても意義深いと感じております。

3月に開催される予定であった東日本大会ですが、こちらの方は感染拡大防止の観点から中止となってしまいました。今大会は東日本大会が始まって以来、初めての北海道開催ということで参加者はとても楽しみにしていただけに、残念でなりません。

1月7日から3月7日まで出されていた緊急事態宣言により、国体強化事業も大きく変更せざるを得なくなりました。1月と2月に開催予定であった強化練習会は中止となり、3月の強化練習会を強化選手選考会として開催しました。男子76名、女子67名が参加し、この中から5月2日～4日まで行われる遠的選手権や国体候補選手選考会で国体候補選手を決定します。

年度が替わり、4月13日(火)に顧問総会が上尾市の総合スポーツセンター講堂にて行われました。例年大宮公園弓道場で行われるのですが、感染拡大防止のため、より広いスペースが取れる会場で、各校1名のみ参加という制約を設けた上での開催でした。今年度は役員改選の年にあたり、川越総合の山田紀之先生に代わり、今年度から委員長を仰せつかることになりました。

微力ではございますが高校弓道および弓道連盟の発展に力を尽くしてまいりたい所存であります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

山田紀之先生は平成23年度から令和2年度まで5期10年の長きにわたり委員長職を務められ、高校弓道の発展にご尽力されました。この場を借りましてお礼申し上げます。今後は、後進への指導助言する立場として、益々のご活躍を期待しております。

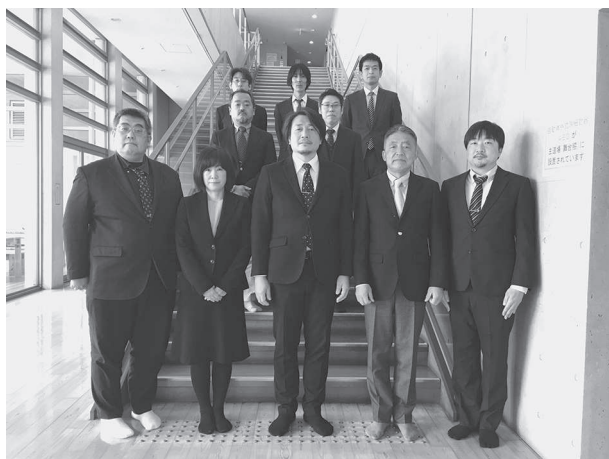
副委員長には、前期より引き続き丸山先生、眞藤先生、山田尚子先生に、今期より新しく坂戸西高校の古岡先生にお願いしました。事務局も前期より引き続き3人体制で運営いたします。

今年度の課題としては、コロナ禍の中、予定されている全大会を安全に実施することです。そのためには、綿密な計画もさることながら、参加する選手・顧問皆さんの協力が必要です。

最後になりますが、今年度は埼弓連による高校顧問勉強会が7月31日に開催される予定です。この勉強会を機に、弓道連盟との交流が一層深められればと思います。

【令和3・4年度専門部役員】

- 委員長 坂本 修（深谷第一）
- 副委員長 丸山康弘（秩父農工科学）
- 副委員長 眞藤純行（市立浦和）
- 副委員長 山田尚子（伊奈学園総合）
- 副委員長 古岡大路（坂戸西）
- 事務局長 蓮見勇人（草加西）
- 事務局 酒井良彦（大宮）
- 事務局 橋本徹弥（入間向陽）
- 高体連会計 友井 誠（鳩ヶ谷）
- 弓連会計 井上 尚（川越南）



<大会結果>

●全国選抜県予選

令和2年11月7日（土）8日（日）14日（土）
大宮公園弓道場 参加者：男子123チーム404名
女子127チーム413名

○男子団体／①浦和B（富樫宥斗、山本 蓮、樋口佳吾、森泉真治）、②星野A（西村智幸、小林一薫、比留間啓太、渡辺 洸）、③深谷第一A（内田 颯、入野壱樹、前原伊吹、金古岳大）、④大宮東A（内田一颯、小川陽平、佐藤康晴、大沼幹太郎）

○女子団体／①草加東B（鮎ヶ瀬みずき、津久井ひなき、河原綾音、渡辺想美）、②坂戸西B（荒木夏月、酒井千花、榊原百合恵、江頭眞里亜）、③鳩ヶ谷A（枅谷蘭那、田川文音、小園咲季、小倉萌加）、④坂戸西A（野村真奈、船津綾乃、荻野瑠奈、山田花怜）

○男子個人／①倉島柊也（浦和学院）、①山本 蓮（浦和）、③勝沼翔和（浦和実業）、④石沢恵悟（大宮南）、⑤青木大空（川口北）、⑤野中武蔵（滑川総合）、⑤高橋和輝（山村学園）、⑧林 裕太（川越初雁）

○女子個人／①田代美空（草加西）、②彦田早紀（大宮）、③寺嶋咲月（進修館）、③両角知夏（浦和北）、⑤高橋映名（入間向陽）、⑤久保田麻衣（星野）、⑦木村優里香（熊谷女子）、⑧若海 愛（深谷第一）

●第39回全国高等学校弓道選抜大会

令和2年12月25日（金）～26日（土）
岐阜メモリアルセンターで愛ドーム特設弓道場
※入賞なし

●第20回東日本高等学校弓道大会

令和3年3月19日（金）～21日（日）
函館アリーナ特設弓道場
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

～～故松沢 岳先生のアルバム②～～



大会・射会入賞記録

●第 39 回 全国高等学校弓道選抜大会

令和 2 年 12 月 25 日（金）・26 日（土）岐阜メモリアルセンター

出場校 団体男子の部：県立浦和高校（富樫宥斗、山本 蓮、樋口佳吾、丸山裕希）

団体女子の部：草加東高校（鮎ヶ瀬みずき、津久井ひなき、河原綾音、竹脇佳奈）

●第 18 回埼玉県武道大会【弓道の部】令和 3 年 3 月 7 日（日）埼玉県立武道館 参加者 66 名

（一般女子・一般男子 選手各 5 名 + 監督各 1 名、6 支部計 66 名）一人 8 射（四ツ矢 2 回）

◇支部対抗の部：①県南支部、②県北支部、③東部支部

◇一般女子の部：個人：①生見和子（本庄）、②坂東 文（日高）、③鈴木多恵子（吉川）

◇一般男子の部：個人：①平塚雄一（富士見）、②山田 昇（行田）、③富澤英明（川口）

●第 68 回全日本勤労者弓道選手権大会 埼玉県予選会

令和 3 年 3 月 14 日（日）埼玉県立武道館 参加者 4 チーム（12 名）

①カーリットホールディングス（河原利宜、平林 望、長井敦史）、②所沢市役所 B（廣川澄芳、澤田靖子、石川淳子）、③さいたま市役所（田中成美、小林大輔、秋元宏友）※今後発表される大会実施要項に定める各県代表チーム数により、上位より埼玉県代表として、また一昨年の全国優勝により優先出場権を持つホンダ埼玉と共に、令和 3 年 6 月 5 日（土）～6 日（日）に栃木県宇都宮市で行われる第 68 回全国勤労者弓道選手権大会に出場予定。

～～故松沢 岳先生のアルバム③～～



昔は碁碁も好きで、弓道とどちらを取るか迷ったこともあったそうです



右側の方は小澤先生のお父様と伺いました



昭和 35 年弓始めで撮影 よくご存じの先生もいました



右 2 枚は昭和 28 年
宇和島国体のときで
す



秩 父 支 部

支部長 町田 文利

支部長退任にあたって

前支部長 石田 徳光

このたび、任期2年を2期お世話になりました。多くの方々のご指導ご鞭撻をいただき曲がりなりにも4年間もお付き合いをさせていただきました。

ただただ感謝の思いでいっぱいです。後任は、教士六段町田文利先生です。県連の副理事長もお勤めいただいたり、大学での指導も行っているなど、指導力や人望にも優れ今後の秩父支部の活動に大きな貢献をいただけたらと思っています。宜しくお願いいたします。

振り返れば、恒例の4月29日には、県下三道大会・9月の地方審査会を始め、支部の行事の数々も大勢の皆様のご協力のお陰で何とかやってこられました。その中でも、平成30年10月26日・27日、秩父市立第1弓道場にて実施された三県連合の範教錬士研修会は、宿泊会場確保や食事の手配など緊張しながらの思い出深い出来事となりました。

しかし、令和2年1月頃から新型コロナウイルスの世界的広まりによって、令和2年度は様々な行事がほとんどできなくなりました。

今年度も残念ながら昨年に続き、4月29日の県下三道大会が中止となってしまいました。新型コロナウイルスなども衰えることなく、まだまだ不安が消えません。早く穏やかな平穏な生活に戻ることを願っています。そして、弓道の益々のご発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

<競技会・講習会>

●秩父4校高校生大会

令和2年11月22日(日) 秩父市立第1弓道場
参加男子26名・女子22名 計48名

○男子団体：①秩父農工科学高等学校Aチーム(守屋拓海、前久保友貴、野沢 匠)、②秩父高校Aチーム(山本滉貴、加藤琢磨、島寄孝孔)、③秩父高校Bチーム(小池英仁、高橋大翔、田島 尊)

○男子個人：①加藤琢磨(秩父高校)、②山本滉

貴(秩父高校)

○女子団体：①秩父農工科学高等学校Aチーム(浅見綾香、大沢かるあ、内田藍菜)、②秩父高校Bチーム(井上奈乃、須藤瀬理、池田果音)、③秩父高校Aチーム(澤登真鈴、新井瑠維、浅賀南星)

○女子個人：①大沢かるあ(秩父農工高等学校)、②新井瑠維(秩父高校)



●秩父4校高校生大会

令和3年3月30日(火) 秩父市立第1弓道場
男子24名、女子24名 計48名

○男子団体：①秩父農工科学高等学校Aチーム(前久保友貴、守屋拓海、野沢 匠)、②秩父農工科学高等学校Bチーム(小澤岳瑠、若林吉宗、藤田滉平)、③秩父高校Aチーム(山本滉貴、小池英仁、島寄孝孔)

○男子個人：①守屋拓海(秩父農工科学高校)、②野沢 匠(秩父農工科学高校)、③山本滉貴(秩父高校)

○女子団体：①秩父農工科学高等学校Aチーム(浅見綾香、大沢かるあ、内田藍菜)、②秩父農工科学高等学校Cチーム(坂本千衿、新井結音、池田千尋)、③秩父農工科学高等学校Bチーム(井上奈乃、須藤瀬理、池田果音)

○女子個人：①内田藍菜(秩父農工科学高校)、②新井瑠維(秩父高校)、③坂本千衿(秩父農工科学高校)

短い高校生生活の中で、様々な行事の中止がありました。しかし、何か希望や目標を持たせ弓道を学ぶ機会を与えたいとの顧問の先生方のご努力でこの大会が実施できました。安全面に十分配慮重ね、無事終了することができました。

県北支部

支部長 高橋 久雄

コロナ禍、新たな年度に向かって

支部長 高橋 久雄

新型コロナウイルスが騒がれ1年以上経ちました。県北でも会員の皆さんが巣ごもり生活になり、練習できない時期が長く続きました。

この間、県北支部顧問でもあった松沢岳範士が亡くなられ、先生とのお別れも満足にできず、また当初計画した支部行事も殆どが中止となりました。

新年度でコロナ禍が収まったわけではありません。ワクチン接種もまだ先のですし、変異型新型コロナウイルスの感染拡大も叫ばれ、今後のことが楽観できる状況ではありません。

しかし私達の取るべき行動は、必要以上に恐れることはではなく、正しく恐れることが大切であるといわれています。感染防止の基本は飛沫感染を防ぐことで、三密回避のため人数制限、ソーシャルディスタンスの確保、マスク着用、手洗い消毒殺菌、こまめな換気等です。

このような状況下、支部でも今年度の行事計画を作成しました。今後、新型コロナウイルスの感染防止に務め運営方法を見直して、行事が開催できるよう取り組んでいきたいと考えています。

実際の開催は都度判断しますが、会員の皆様には、これからもご協力をお願いいたします。

県北支部で毎年カップ戦や高校生大会を行っていましたが、その都度気になっていたことがありました。大会の優勝カップや優勝トロフィーが、長い月日の間に痛んでサビも出て、表示板も読み取れないほど消えかかっていたのです。

どうにかしたいと思っていましたが、一昨年に生前の松沢岳先生から県北支部にご寄付を頂きました。先生からは「何にかついてもいいよ」と言われましたので、これを機会に優勝カップの新調を検討しました。

その結果、昨年コロナ禍ではありましたが、カップ戦の優勝カップと、高校生大会の優勝トロフィーを思い切って買い換えました。

コロナ禍、通常の射会が実施できないため、まだお披露目できていませんが、今年は是非、新しい優勝カップや優勝トロフィーを目指して競技が開催できることを願っています。



新調した優勝カップと優勝トロフィー

<競技会・講習会>

●新年初射会、兼 県武道大会選手選考会

令和3年1月30日(日) 通信射会で実施(参加7道場) 参加107名

○称号の部:①西岡謙市朗(深谷BT)②生見和子(本庄)③蜂須明子(熊谷公園) ○四五段の部:①三澤一夫(熊谷公園)②山田 昇(行田)③會田春樹(深谷BT) ○三段以下の部:①原清加根(吹上)②石原邦浩(行田)③山下芳子(本庄)

○武道大会選手選考結果:

□男子:長井敦史、三澤一夫、山田 昇、會田春樹、原清加根 □女子:生見和子、西岡好美、高橋えり子、藤崎智子、山下芳子

●第1回支部講習会(三段・四段)

3回に分け各回は人数制限し、半日での実施

令和2年11月8日(日) 参加13名、熊谷運動公園弓道場 講師:岡芹喜行教士

令和2年11月15日(日) 参加15名、熊谷運動公園弓道場 講師:飯島千代子範士

令和2年11月18日(水) 参加14名

熊谷運動公園弓道場 講師:飯島千代子範士
内容:一手審査方式の行射、全体<個別講評、入場から退場までの動作の指導、射技指導

●第2回支部講習会(初段・貳段)

令和3年1月14日(木)、17日(日)、19日(火)

3回に分け各回人数制限し、半日での実施を予定したが、緊急事態宣言発出で中止となる。

●支部錬成会は募集の段階で中止とした。

渋沢栄一に学ぶ弓道精神

深谷市弓道連盟 BT 弓道会 飯島 常敏

私が生まれたのは旧八基村（現深谷市）で、北に坂東太郎（利根川）が流れ、南には秩父の山々が連なっています。

♪ 仰げば高し秩父山

臨めば深し利根の川

山川我に教うなり

いざもろともに学びてん♪

八基小学校創設者渋沢栄一翁の長女歌子さん作詞の校歌です。

その小学校には、栄一翁直筆の「忠恕」「至誠」「礼節」の扁額が掲げてありました。

ちゆうじよ
「忠 恕」：内的な誠実心（真心）
他人を思いやるころ

「至誠」：誠意を貫き通す

「礼節」：礼儀と節度
（弓道人に説明は蛇足でしょうか）

小学生の頃は夢中で見ていた文字でした。弓道を始めて栄一翁の教訓と弓道の教えが共通しているということに気が付き、今さらながら気が高揚しております。

NHK 大河ドラマ「青天を衝け」の放送に伴い、心新たに身が引き締まる思いでこの教訓を認識いたしました。

弓道人として恥ずかしくないよう、そして栄一翁ふるさとの子孫的な気持と自覚を持って「射即生活」を実践してまいりたいと思っております。

～～故松沢 岳先生のアルバム④～～



平成9年 文化功労賞授賞式会場で奥様と

東 部 支 部

支部長 二見富士夫

コロナ禍の1年

前支部長 北原きい子

昨年の冬に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、夏になればインフルエンザのように収まるものと……。しかしそうはいかず、10月の講習会1件を除いたすべてを感染防止のため中止せざるを得ませんでした。

また、競技唯一の武道大会予選は、大会形式をとらず、各連盟にて2名の立ち合いのもと24射記録し、それを支部でまとめ、選考基準に則り選手を決定しました。2年連続の3位と健闘しました。武道館のような大きな道場での行射は解放感もあり、久々に仲間と逢えた喜びで、楽しく充実した時間だったようです。

昨年の総会は新型コロナウイルス感染症の拡大に対する余裕もなく、急遽中止の措置を取り、書面にて報告することで承認を得た総会でしたが、本年度は、コロナ禍でも安全安心な総会の在り方を理事会にて検討しました。3月28日（日）大宮公園弓道場での開催予定でしたが、北本市体育センターに変更し、密を避けるために各連盟から3名の代表者による総会に変更し開催しました。情報交換や会員からの要望等も検討し、前向きな支部運営に向けて新しい執行部が決まりました。

新支部長 二見富士夫（春日部）

副支部長 村上節子（上尾）

” 仲田孝雄（上尾）です。

今後とも東部支部発展のためご指導ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

また4年間の支部長任務を無事終了することが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。有難うございました。

< 競技・講習会 >

● 第4回講習会

令和2年10月24日（土）大宮公園弓道場 受講生（午前：参・四段）18名、

（午後：式段以下）12名

講師：根本武次郎、村上広子各教士

内容：審査方式にて一手行射その後評価、射技指導、他（午前・午後共）

埼弓連ガイドライン II に基づき事前に開催計画

＜コロナ禍における各連盟の取組み＞

●上尾市弓道連盟

新型コロナウイルス感染症の拡大により、行事や講習会の中止、道場使用の条件など、会員の練習が大変厳しくなっています。指導も密接を避けねばならず、指導する方も、される方も不自由が生じています。

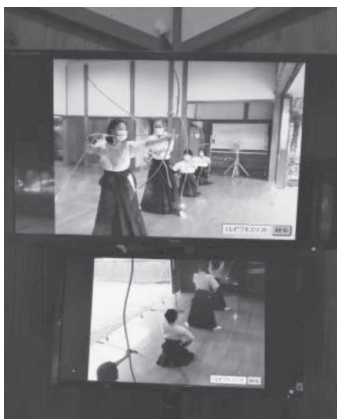
しかし、適切な指導なく自由練習だけでは個癖（練習すればするほど悪癖を固めてしまう）が心配です。本連盟では2年前から支援システムの開発に取り組んできました。幸い、パソコンに詳しい方がおり、大変安価で優秀なシステムができ上がりました。3方向からの自分の射技確認を可能にしました。正面は固定で、背面と妻手側は簡単な切り替えで映像が出るシステムとしました。

個人練習では平素の注意点改善に大いに活躍しています。指導においては、指導される本人も映像で確認でき、指摘されたことに納得がいくようです。

また、このシステム導入後、多くの会員が退場口で自身の射形や体配をチェックするなどの向上心が見られ、身体に触れることなく指摘や指導できることからセクハラ等の防止にも一役買っています。



2 画面から射技を確認する会員



上：正面固定、下：背面と妻手側

●杉戸弓道連盟

本連盟は、今年で40年目の節目を迎え会員17名で活動しています。

平成16年7月まで弓友のご厚意で土地を借用して、活動をしていましたがそれ以降は、幸手市弓道場で毎週木曜日午前中、宮代弓道場で火曜日午前中・土曜日・日曜日、隔日の午前中に稽古をしています。

今年度はコロナ禍で4月以降の行事は、9月下旬まで全て中止となりました。

4月7日に緊急事態宣言が発出され5月25日解除まで、弓道場での練習・活動は出来ませんでした。6月以降は、埼玉県弓道連盟のガイドライン並びに、幸手市弓道連盟・宮代町弓道連盟のガイドラインを参考に、杉戸弓道連盟独自のガイドラインを作成し活動しています。

●宮代町弓道連盟

令和2年度の連盟の活動は宮代町総合体育館の閉館からのスタートでした。会員の皆が意気消沈しました。宮代町弓道連盟で予定されていた行事も全て中止になりました。

6月になり待ちに待った道場が開館になり、会員一同集まり道場の掃除、安土整備をして道場に通える喜びでいっぱいになりました。

コロナ禍の中、審査や講習会、大会等々中止となり若い人は目標を何処に置いたらいいのか迷っている様子でした。最近になり、徐々に講習会、審査などが再開され目標ができ頑張って練習に励んでいます。

また年配者は道場に行き練習出来る喜びでいっぱいです。ただ楽しむだけではなく手の内や離れ、胴造りなど皆で工夫しあって稽古しています。

弓道教室や月例射会など今は中止しており、早く新型コロナウイルス感染症の拡大が終息し、何の心配もなく楽しく行事が出来るようになるとういなどと思います。

制約はある中での活動となりますが閉館は無く練習ができる状況に感謝しております。

以上が66号にて紹介できなかった支部内連盟のコロナ禍での活動状況です。

県南支部

支部長 鹿野 信恵

古希雑感

戸田市弓道連盟 熊木 幸夫

コロナ禍で現在も(3月)道場が閉鎖される中、1月で古希を迎えました。ともあれ70歳になった今、健康で弓を引けることに感謝しています。今巢ごもり生活が日常となり時代劇を観るのが楽しみの一つになっています。今年のNHK大河ドラマで埼玉県の偉人渋沢栄一を描いて「青天を衝け」が始まりました。先日、草薨剛さんが演じる徳川慶喜が弓を引くシーンがあり、弓を引く身にとってはその所作が気になりますが見事なものでした。巻藁的に向かって弓を引くシーンで弓の握り方と物見を入れる姿勢に凛として気品があり感動さえ覚えました。かなりの熟練者が演技指導したのでしょう。

物見で思い出したことがありました。今から30年程前、五段を受審していた頃、審査基準に「射品現われ、精錬の功德に認められる」とあり難解な表現に戸惑いがありました。前橋で受審したとき見学に来ていた当時の支部の先輩で五段のT氏から「乙矢は前の人退場して審査員は全て良く見えているから最後まで気を抜かず弓倒しからとくに物見返しはおでこで舐めるように戻せ」とアドバイスを受け、幸運にも合格できました。それ以来今でも看取稽古では物見返しが気になりよく見るようにしています。その頃から射品は息合いに協応した動作からとって思っていたが後段にある精錬の功德と対になっているのだろうと最近は思っています。何事も付け焼刃ではうまくいきません。射品の向上は永遠のテーマです。

弓を引き始めて通算で35年になりますが、その時々で課題は常にあり、心の在り様も様々です。それが弓のおもしろさなのではないでしょうか。70代これから10年どんな心境で弓を引くのか自分自身でも楽しみではあります。

巢ごもりしていると色々なこと考えますね。ところであの時前橋で会ったTさん今どうしているかなあ。

～～・3月15日現在の各道場の状況～～

○川口市弓道連盟

緊急事態宣言中の現在、感染対策継続の上、市内施設は19時迄。過日の地方審査では合格者もあり、久々に活気が感じられました。

3月から人数制限等の感染対策を講じ、月例会、連盟内研修を予定。

○越谷市弓道連盟

コロナ禍の規制によりこの一年様々な行事が中止となりました。恒例の月例会は密にならないよう配慮した形式をとり2月から再開、3月には遠的による月例会を実施しました。

また、毎月開催の20名程の理事会はZoomを利用し、リモート会議形式で行っています。

○草加市弓道連盟

緊急事態宣言発出に伴い、道場の利用が休止となりました。宣言の延長もあり、現在も利用は休止中。稽古をするには大変厳しい状況ですが、先日行われた審査では若手会員の段位取得や五段昇段の嬉しいニュースもありました。

○戸田市弓道連盟

コロナ禍により活動拠点が閉鎖・開放が繰り返されていますが、感染防止対策を守り、月例射会を月例発表会と内容を変え「人に見られている」を意識し行射する機会や、個人利用の禁止期間では連盟射会を練習会に変更し弓に携わる時間を創意工夫し活動しています。

○蕨市弓道連盟

- ・利用時間9時～19時(従来は21時まで)
- ・道場人数制限 9人まで
- ・個人利用は2時間で、延長はなし
- ・月例会は午前・午後に分けて実施

○吉川市弓道連盟

コロナのガイドラインに沿って密にならないように稽古を行っています。その結果、1月の審査では一昨年入会した会員を中心に4名が合格しました。

月例会も少人数・時間別の記録会形式で昨年より継続しています。

○松伏町弓道連盟

各ガイドライン遵守の上、利用時間を記録し、練習を行っております。

月例射会は、利用の時間差を作り、的中・遠近記録を取り継続しております。

<講習会>

●第4回四段以下講習会

令和3年1月31日(日) 県営大宮公園弓道場

参加者6名

講師：森 正一、宮澤梢枝 各教士

※講習内容は各段位に応じて体配、射技指導等を実施

●県南東部高校生大会

令和3年3月20日(土)～30日(火)

各高校/通信制で開催

審判員：派遣中止(新型コロナウイルス感染拡大予防の為)

~~~~~ 故松沢 岳先生のアルバム⑤ ~~~~~



左と下は、  
平成15年9月 伊勢  
全日本弓道大会  
審判演武で



# 県 央 支 部

支部長 荒井 渉

## コロナ禍での審査

前支部長 古泉 利昭

11月に入った頃から少しずつ増加してきた県内コロナ感染者数が年を越した1月になると日に400人を超え、7日には埼玉県を含む1都3県に緊急事態宣言が発出されました。

その宣言で、県内スポーツ施設の利用が制限される中、30日の地方審査会も中止になるのではないかと運営委員であるにもかかわらず準備作業に手を付けていませんでした。

しかし、中止の連絡はなく、逆にこの審査会は、コロナ感染症への突破口として感染者を一人も出さずにやり遂げなければならないという本橋会長や齋藤委員長の意気込みに、これはしっかりした準備を進めなければならないと、全弓連より示された「新型コロナウイルス感染防止対策に関する地方審査会事業運営ガイドライン」をもとに感染対策を練り始めました。

三密にならないような対策として、弓道場への入場制限、換気配慮、更衣室やトイレの人数制限、待機場所では1m以上の間隔をとるなど。また別に消毒薬の配置、非接触体温測定や行射中のマスク保管、一方通行の順路作成などやらなければならないことは山積でした。

さらにこの状況下で役員をお願いした方がお引き受けくださるかどうか心配でしたが、そちらは皆さんに快く承諾をいただきました。

準備を進めるうちに皆さんからいろいろなアイデアが出され、ともかく初めてのことで、できることは何でもやっておこうとの考えでたくさん採用させていただき、山積みだった感染対策も審査までには何とか解決することができました。

審査当日の朝、念のため行った受付での非接触型体温計が寒さでうまく動作しなかったこと（武道館入り口のカメラ型体温計で一度測定済み）や受付場所の案内が不十分だったことなどまだ準備に不手際な所もありましたが、何とか感染者を出すことなく審査を終了することができました。これもご協力いただいた先生方や役員の皆様のおかげだと心から感謝いたしております。

これからしばらくはコロナ禍での審査が続く

と思いますが、審査委員会の上水流先生が今回の審査で気付いた点等を記録で残されておりますので、お読みいただき、これからの審査の感染対策に活かしていただければ有難いです。



## <競技・講習会>

### ●さいたま市民体育大会（通常大会・一般の部）

令和2年10月1日～18日 各道場

参加 266名

- 団体①岩槻（軽込次男・武政宏美・田辺智子）、②岩槻（石川芳男・町田智行・中村光広）、③大宮（酒井章貴・岩井雅子・池田浩二）
- 個人男子①瀬田 稔（大宮）、②田口喜也（岩槻）、③石川芳男（岩槻）

- 個人女子①田辺智子（岩槻）、②小澤伸江（大宮）、③フビジエンヘザイヤ（記念）

### ●さいたま市民体育大会（通常大会・高校の部）

令和2年10月 各学校・大宮公園弓道場

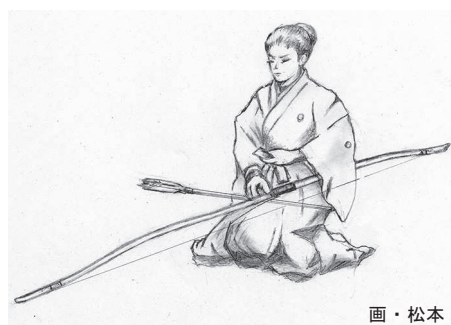
参加 338名

- 男子団体①与野（小室・矢崎・松島）、②浦和（富樫・丸山・森泉）、③与野（寺沢・藤枝・吉田）
- 女子団体①大宮東（田口・右島・本図）、②与野（赤石・木村・篠田）、③市立浦和（佐藤・大北・加藤）

- 個人男子①松島悠斗（与野）、①齋木大誠（浦和北）、③丸山裕貴（浦和）

- 個人女子①久保あおい（浦和学院）、②加藤舞弓（市立浦和）、③木村花菜子（与野）

\*個人男子は通信大会ルールの為1位が2名となりました。



画・松本 正

# 西部支部

支部長 池谷 茂

## 新型コロナウイルスの収束を願う！

支部長 池谷 茂

令和2年度の西部支部総会・評議員会は会場の人数制限により理事会で協議の結果、3月21日に各委員長、評議員総数50名により無事終了いたしました。新年度は役員改選となり支部長の再任命を受けました。この重責を引き続き役員との協力により支部の事業が円滑に進むように努めて参ります。西部支部執行部は三密を避け、オンラインによる会議を実施しております。今後各委員会の会議もオンラインを推奨したいと考えています。一日も早く弓を安心して引ける平穏な日常生活が訪れることを願い、気を引き締めて会員の皆様と共に令和3年度をスタートしました。

### <競技・講習会>

- 第30回西部支部高校弓道選手権大会  
令和2年11月3日(火) 大宮公園弓道場  
【中止】
- 支部納射会  
令和2年11月22日(日) 日高アリーナ弓道場  
【中止】
- 支部初射会・昇段昇格者披露  
令和3年1月24日(日) 日高アリーナ弓道場  
【中止】

支部弓道大会は技を競うのみならず、他の道場の弓友との親睦を深める為にも大切な事業ですが、コロナ禍、我が西部支部も昨年度はすべての大会が中止に追い込まれました。

この中であって、唯一、埼玉県武道大会(弓道の部)選手選抜を通信大会方式によりおこないました。その方法は①坐射4つ矢3回計12射、②最低一人の現認者を設ける、③道場別選出人数は的中上位男女各5名以下などの規定を設け、支部として正選手男女5名と補欠各2名を的中上位者から選出しました。また8中以上には賞品を贈り盛況のうちに終えることができました。

今年度は、拠点の所沢市民武道館のイベント人数制限(50名)が解除されるまでは、午前・午後の2部制とし、少しでも多くの弓友と触れ合えるよう検討中です。ただそれでも大会に

よっては例年の1/2の人数であり、過去の参加実績から道場別参加枠を設ける予定です。コロナ感染対策は県連ガイドラインにそって万全を期して開催してまいりますので皆様ご協力をお願いいたします。

- 第1回支部講習会(三・四段/二段以下)  
令和2年4月11日(土)【中止】
- 第2回支部講習会(三・四段/二段以下)  
令和2年6月14日(日)【中止】
- 支部特別研修会(称号者)  
令和2年7月18日(土)【中止】
- 支部高校生夏期講習会  
令和2年8月5日(水)【中止】
- 第3回支部講習会(三・四段/二段以下)  
令和2年9月13日(日)【中止】
- 第4回支部講習会(三・四段/二段以下)  
令和3年1月31日(日)【中止】
- 支部特別講習会  
令和3年3月27日(土)・28日(日) 所沢市民武道館弓道場 参加両日59名 対象五段以上 講師：浅野有三教士八段  
内容：両日共に令和3年度臨時中央審査に向けての指導(午前15名・午後15名入替で開催)
- 支部高校生春期講習会  
令和3年3月31日(水) 所沢市民武道館弓道場 参加者16名(午前・午後入替え開催)  
講師：池谷 茂教士  
内容：令和3年度ビデオ審査に向けての指導

昨年度年度末に講習会をコロナ禍の中、埼玉連講習会の手引きにならない、役員打合せを何度か行い、コロナ対策をとり、開催する事ができました。午前・午後で受講生の入替えをし、昼食をとらないことでの密を避け取り組みました。講師の先生・受講生には不自由をかけてしまいました。開催できたことに感謝しています。

令和3年度の予定としましては、例年通り講習会を予定しました。ただ受講生の参加人数の制限がありますので、例年通りの講習会に平日開催を行う事にしました。申込者を全員受け入れられる事が目的ですが、申込者に不自由をかけることもあるかと思えます。

役員一同コロナ対策をとり、各自体調管理に気遣い、令和3年度の開催ができます様取り組んでまいります。皆様のご協力よろしくお願ひ致します。



# 中 部 支 部

支部長 鳶田 富男

## 支部講習会—松沢 岳先生の思い出

支部長 鳶田 富男

### 1、松沢先生の訃報に接して

世界中にコロナの感染が拡大する中、生活が制限され、弓道場も閉鎖されるなど、感染しない、感染させない行動が求められています。私ごとですが、この正月、孫とは携帯電話の画像での対面で、グータッチもできませんでした。

その渦中の昨夏、松沢岳先生がお亡くなりになりましたが、お別れもできない悲痛の日々を送らなければなりません。

中部支部では長年にわたり、称号者へご指導をたまわっておりました。お忙しい中でも、私共の願いをニコニコとお受けいただいたこと、まことにありがたく思っております。

### 2、松沢先生と中部支部

平成12年までは、県弓道連盟から講師をお招きして講習会を開催しておりましたが、13年より、四段以下は各支部で指導することとなり、指導体制を確立する必要に迫られました。指導者としての姿勢、初心者や四段以下の指導法、体配などをお教え願いたく、松沢先生にお願い申し上げ、長くご指導をたまわることとなりました。

(元支部長 内河輝臣先生談)

### 3、松沢先生の思い出

そのご指導は、常に笑みを浮かべ、優しい言葉づかいで、受講者が理解しているか否か確認しておられるような語りかけでした。

私は先生の御宅へ送り迎えをしましたが、その往復の約3時間にたくさんのお話をいただき、懐かしく思い出されます。

最初にお迎えにうかがった時には、助手席に座ろうとされるので、畏れ多いことと後ろに座っていただきました。

しかし、先生はお話好きで、運転席の隣で会話を楽しむことが何よりと前任者から聞き、帰路には助手席にお座りいただきました。それでも先生が隣に座られることは畏れ多く私には緊張の時間でした。

先生は弓道に関するお話は殆どなされず、

戦時中の体験をよく語られました。

戦時には満州で従軍されたこと、輸送部隊でトラックを運転したこと、トラックを慎重に運転すると上官にひどく怒られ荒っぽい運転になり、今でも同乗者に怖がられること、帰還して防空壕で焼死や酸欠で多くの縁者を失ったこと、などでした。

私も叔父が戦死しており、関心をそそられ、聞き入ったものでした。

特に、先生は強運の方だったのか、あるいは情勢判断に長けておられたのかと思うお話があります。敗戦時にソ連軍の侵攻を逃げ切り帰還できた、判断を誤れば抑留され、命があったどうかかわからない、とのお話です。

先生の情勢判断力のおかげで、私たちは弓道をお教えいただくことができました。御宅への道中は思い出深いものがあります。

ご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

## ～～ 故松沢 岳先生のアルバム⑥ ～～



平成5年2月  
水戸の講習会で  
演武披露



## 川越武道館 閉館の危機を乗り越え

川越市弓道連盟副会長 松本 正

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災から 4 年が経過したころになって、川越市から武道館が震度 5 に耐えられない構造であり、耐震工事をしても使い勝手が悪くなるため、平成 28 年 3 月 31 日をもって武道館を閉館する、また新しい武道館の建設はしない、との一方的な通達があった。

弓道、剣道、柔道の三連盟は受け入れられないと主張しつつ、市との交渉のために武道団体協議会を発足して協議を重ね、さらに空手、なぎなた、少林寺拳法、新陰流、古武道の諸団体を加えて協議会の体制強化を図り、武道団体の総意を示すために耐震工事の請願を行う署名を集めることにした。最終的には一万数千余の署名を集め川越市長へ提出した。

武道団体の会員である一級建築士の設計事務所から、震度 6 以上に耐えられ、使い勝手も悪くならない新しい設計案を提出した。

市長の英断により武道館閉館は白紙になり、設計案に基づき工事を実施することとなり武道館閉館の危機は避けられることになった。

耐震化工事に加えて、建築後 40 年以上も経過して老朽化が見えてきた水回りをはじめ、使用者の使い勝手を考慮した改善項目を検討して、川越市側に要望書を提出した。



新道場の様子 安土整備、アクリル板、LED 看的板、赤旗を設置

弓道連盟からは、数十項目にわたる要望をおこなったが、特に安全面と使い勝手の向上に重点を置いたものになった。

安全面では、矢道と矢取道の間にアクリル板による仕切りを作り、大会開催時の安全を確保、矢取り時の赤旗と警報機による安全対策、防矢ネット等の設置など。また、道場としての整備では、段差の多かった射場のフラット化と入場

から射位までの十分な奥行きを弓道場の壁移動により実現した。

その他にも安土の整備や安土幕の新調、そして LED 看的板を設置するなど改修と整備を行いかつての薄暗く狭い感じのする弓道場は明るく広くなり一新された。

更衣室、巻藁コーナーも新しくなり、トイレも洗浄便座付の近代的なものになった。師範室も改装されて畳も新しくなり、弓具や道場に必要なるものを収容する倉庫も設置され、使い勝手が格段に向上した弓道場に生まれ変わった。



射場内の全面フラット化と道場奥行き確保、構造物の柱は撤去できず・・・

新装なった武道館の竣工式や、新弓道場での川越市弓道連盟 70 周年記念行事は、コロナ禍のため、すべて中止となり、静かな使用開始となった。

現在は、感染防止ガイドラインにそった使用法を遵守し、半地下の弓道場のため換気不足になる恐れがあるため、換気強化のために大型扇風機やサーキュレーター等をフルに活用して、対応している。

折角の冷暖房設備があるのに、コロナ感染防止のための換気対応ですが、本座と射位に設置された床暖房のおかげで、この冬は快適に弓を引くことができた。

とはいえ、コロナ禍が早く終息し、新武道館にも以前のような賑わいのある日々が来ることを願っているところです。



画・松本 正

# 新型コロナウイルス (COVID-19)

## との戦い 3

理事長 平野 博幸

### 1、事業再開の取り組み

令和2年10月以降、さまざまなG o T oキャンペーンも行われるようになり、経済活動が徐々に活発に行われるようになってはきましたが、一方で感染者の数が大きく減少する状況にはなりませんでした。東京では100人から200人、埼玉でも30人から50人の感染者が連日報告されました。10月22日、政府の専門家会議は「首都圏で感染が減少の動きとならないことが、全国で継続的な減少がみられない状況の要因」との分析をまとめました。また、地方の繁華街でクラスター（感染者集団）が起きており、今後の感染動向に留意が必要と強調しました。10月は経済活動・社会活動と感染予防を両立させることの難しさを感じさせる月となりました。

11月、埼玉連は今年度初めての参集しての常任理事会を7日に開催しました。今年度後半の事業展開や令和3年度の事業計画、予算案、役員改選等々山積する課題を協議する場でした。会議は、前日に埼玉で過去最多の114人、全国でも8月下旬以来の1,100人の新規感染者を数える中でのものとなりました。

常任理事会では今後のWithコロナの時代を想定して、これまでその都度の状況に応じて作成したガイドラインを「ガイドラインⅣ」という形で整理し、これに「講習会」「競技会」「支部・道場主催競技会」「弓道教室」の各手引きを添付しました。また、令和3年度に向けて埼玉連会費をどうするか、各競技会の開催方法をどうするか等の検討を行いました。通常の常任理事会は午前中に終了しますが、令和2年度最初の参集しての会議であったこと、令和3年度が役員改選期であること、コロナに対応する方策を検討しなければならないこと等のため1日かけての会議となりました。

常任理事会を受けて11月29日には令和2年度初めての参集しての理事会を予定しましたが、コロナ感染症の拡大は予想を超えるスピードで広がり、連日過去最多の新規感染者を数えるようになり、埼玉連は理事会をはじめすべての年内の事業を中止・延期し、支部・道場にも各事

業の中止・延期・縮小を要請しました。

12月に入ると寒さが増す気候の中で感染は益々拡大しました。東京では連日過去最多の感染者を確認する時期もあり、埼玉でも200人を超す新規感染者が確認される日も現れました。年末年始の医療体制が危惧される中、政府はG o T oトラベルの一旦停止を発表しました。また、イギリスでより強い感染力を持つとされる変異株の出現が伝えられ、これがイギリス以外の各国で確認されるようになると、世界的にパンデミックは益々広がりを見せるようになりました。日本政府も一部を除き全世界からの入国を禁止しました。しかし、緊急事態宣言の発令はなく、施設も開館されており、感染対策は国民の意識と行動の変容に頼る色彩の強いものにとどまっていました。そうした状況の中で、埼玉連はこれまで以上に日々の感染状況をモニターしながら独自の判断として事業の開催可否を検討しなければならなくなりました。

### 2、令和3年、2年目の戦い

令和2年の大晦日は東京で1,337人、埼玉で330人、それぞれ過去最大の新規感染者数を数えました。神奈川・千葉もそれぞれ過去最大の新規感染者を数え、1年に近いCOVID-19との戦いはまだ終息の道筋さえ見えていませんでした。年が改まって令和3年1月2日、東京・埼玉・神奈川・千葉の1都3県の知事は政府に緊急事態宣言の発出を要請しました。

埼玉連では、1月1日に県南部の道場所属会員に初めて陽性者が出ました。幸いクラスターにはならず、感染した会員も軽症で済みましたが、感染予防対策を十分に行っても感染リスクがゼロにはならないことを改めて知らされました。

こうした中で埼玉連は1月下旬から令和2年度初めての参集しての審査会を行うこととして準備を行いました。会員の安全・安心は第一に考えなければならないことではありますが、同時に会員のモチベーションを維持し弓道の火を消さないために何ができるかを考えた上での判断でした。全弓連から示された審査におけるガイドラインを遵守し、必要な備品を準備するなど受審者、審査委員、運営役員の安全を守るためのあらゆる取り組みが行われました。

一方で県初射会は、会員を集めずに埼玉連事



業の1年間の安全を祈念した巻藁射礼と矢渡のみを行い、さらに大宮公園錬成会、国体選手育成会は中止の判断をしました。さまざまな事業の中で何がリスクの高い事業であるのか、最も重視する事業は何かを検討した結果でした。

### 3、緊急事態宣言再発出のもとで

令和2年から令和3年にかけての年末年始の感染者数の拡大は、我々の予想を超えたものでした。1月1日には初めて埼玉連会から感染者が発生したとの報告がありました。幸い重症には至らず、他に濃厚接触者に該当する者もなく、道場が感染源であるということでもありませんでしたが、新型コロナウイルス（COVID-19）が我々の身近にあるということを改めて実感させられました。

政府は1月8日に東京・埼玉・神奈川・千葉の1都3県に、1月13日には大阪など地方の大都市圏を中心に7府県に2月7日までの緊急事態宣言を発出しました。埼玉県は国の動きに対応して飲食店の営業自粛や県営施設の閉館等の措置をとり、県立武道館も武道教室等の中止、個人利用・新規予約の停止を行いました。

埼玉連は1月16日に県立武道館で常任理事会・理事会を予定していましたが、Zoomを利用したリモート会議を行うことに変更しました。理事会でのリモート会議は初の試みであり、リモート会議を行う環境を持たない理事もあって課題もありましたが、今後、こうした環境の整備を行うことも必要となってくると痛感しました。1月下旬には全弓連から3月21日にオンライン大会を行うための準備の調査がありました。改めて確認してみると、オンライン大会を行うための通信環境が整備されている弓道場がほとんどないことがわかりました。コロナ禍のもとでの様々な取り組みを行うためには多くの環境整備が必要となることを確認することになりました。

1月上旬に新規感染者数が大きく増加した後、徐々に新規感染者数は減少傾向を示すようになりました。しかし、そのテンポは極めてゆっくりとしており、医療崩壊が現実のものになるおそれも出てきました。そうした中、さいたま市は市内の市営施設全体を閉館することとし、市内の弓道場も全館閉館となりました。埼玉連はガイドラインIVで支部を超えての道場利用を行

わないこととしており、県央支部の会員は稽古の場を失いました。こうした状況の下ではありましたが、1月30日には令和2年度初めての地方審査が万全の感染予防対策を行いながら実施され、受審を希望した会員のほとんどが受審しました。これから続くであろうコロナ禍のもとでの事業展開に向けての第一歩となりました。

審査会は開催されましたが、講習会、錬成会、育成会、競技会等の事業は同時時間帯に集まる人数が比較的多く、2月の事業は開催の目途が立たない状況が続きました。そうした中、政府は栃木を除く10都府県の緊急事態宣言を1ヶ月間延長することを決定しました。

### 4、第3波後の事業展開

栃木での緊急事態宣言解除後、それ以外の都府県を含む全国での新規感染者数の減少は続きました。しかし、変異株による感染者の広がりや減少が下げ止まるなど予断を許さない状況は続きました。そうした中で埼玉連は2月20日にリモートで第3回理事会を開催して令和3年度の事業計画・予算等を決定しましたが、新年度での事業展開はいまだ予想できない状況でした。4月に予定した第1回地方審査（高校ビデオ）も令和2年12月以降の高校部活動の停止期間が延長される中で時期を変更せざるを得ないことになりました。理事会では今後の状況の変化に速やかに対応するため、正副会長・理事長・副理事長・各専門委員長による役員会を設置し、定期的にZoomによる会議を行うこととしました。第1回役員会は3月1日に開催され、4月中旬までの事業実施の可否について判断しました。今後もしばらくはこうした対応を続けていくことが必要であることが痛感されました。

厳しい状況が続く中ではありましたが第3波後に向けて徐々に事業の展開も図られ、2月27日には第1回国体選手選考会、3月7日には秩父支部を除く6支部の参加で武道大会が、3月14日には全国勤労者大会埼玉県予選が開催されました。いずれも感染対策をとって例年とは異なる形態での開催でしたが、競技会の開催は令和2年春以降初めてであり、令和3年度の事業展開に向けても新たなスタートとなるものでした。この間、埼玉連事業によって感染者は発生せず、感染予防策についても経験が積み重ね

和3年度以降の事業展開に大きな財産となりました。

感染者数の減少が下げ止まる中、政府は1都3県の緊急事態宣言をさらに2週間再延長しましたが、それでも感染は終息せず、経済への悪影響が大きくなり自粛疲れも言われる中でやむなく、3月21日に緊急事態宣言は解除されました。緊急事態宣言解除にともない、さいたま市の施設全面閉館は解かれましたが、リバウンドへの警戒から県営施設の使用制限は引き続き行われ、埼玉連の事業再開にも慎重な判断が求められる状況が続きました。

## 5、令和3年度に向けての準備

新型コロナウイルス(COVID-19)が流行し始めて1年が経ち、新しい生活の中で埼玉連も新しい年度を迎える準備を始めることになりました。同じ時期、3月21日、政府は東京オリンピック・パラリンピックに際して海外からの観戦者を受け入れない決定を行いました。ワクチン接種は始まりましたが、まだまだCOVID-19との戦いは続くであろうことを実感させられるニュースでした。

令和3年度は埼玉連の役員改選期です。そのため埼玉連では例年と異なる状況下で新年度を迎えるにあたって、早い時期から新役員体制の準備を行いました。各支部や各道場でも総会が開催できない、あるいは人数を限らなければならない状況があり、早い時期からの準備は欠かせない対応でした。

また、令和2年度の評議員会は書面議決の形で行われましたが、令和3年度は役員改選期でもあり、評議員・理事の人数を限った形で参集して行うこととしました。支部の評議員はそれぞれ13名ですが、各支部5名の参加にとどめ、出席できない評議員には委任状を求めました。また理事の参加も原則として常任理事会のメンバーのみの参加としました。例年は行われている長寿表彰も行わず、短時間で必要な議事を進めました。

非常事態であるからこそ、早い時期からの十分な準備と万全の体制整備が欠かせないということはこの間の貴重な教訓です。

## 6、これからもしっかりとした感染対策を

パンデミックは続いています。埼玉県

の感染者数は3万人を超えています。埼玉県の人口700数十万人ですから、700人に3人、埼玉連の一般会員は3,000名を超えますので、おおざっぱに計算すれば埼玉連から10数人の感染者が出てもおかしくないということになりますが、幸いなことにそうはなっていません。これは会員の理性的かつ慎重な行動と埼玉連、各支部、各道場の適切な取り組みの成果と考えられます。安心・安全は気持ちの問題ではなく、科学的な根拠をもった対策によってもたらされるというのがこの間の教訓ではないかと考えています。

## ～～ 故松沢 岳先生のアルバム⑦ ～～



若い頃の宴席では・・・  
但し、松沢先生はお酒を飲めませんでした

60.12.21 伊香保温泉旅行記念 於・木暮旅館

## 編集後記 67号

今回、故松沢範士の追悼記事の特集しました。松沢先生が県連会長を退いて約20年経ち、経験の浅い会員の中には知らない人も増えてきていると思います。松沢先生の人となり少しでも知って頂ければと思います。沢山ある写真から厳選しました。

また、コロナ禍で県連行事や各支部行事ができなかったため、他の記事が集まるか心配していました。蓋を開けると、沢山の記事をいただけてホッと、逆にページ数が増え、うれしい悲鳴となりました。

一部の記事を次回に廻そうとも思いましたが、コロナ禍の今だからこそ、会員の方々へ情報を発信することが大切なことと考えて、そのままとしました。

編集長 高橋久雄